団体名：岡崎牧場（鹿嶋牧場）
代表者： 鹿嶋　利三郎
所在地： 高知市円行寺

〔ポイント〕
昭和４０年代から全国に先駆けて芝草地を整備し、放牧を中心とした経営を確立してきた。当時から近隣の小学生や幼稚園児の遠足等に牧場を開放。
平成に入り経営を維持する為にフリーバーン飼育方式に切り換え、飼育頭数の拡大を図る。フリーバーン方式は、乳牛の適切な飼育環境及び乳量の確保が期待できる飼養管理システムといわれている。５年ほど前から「酪農教育ファーム」の取り組みに参加し、さらに、栄養士の資格をもつ家族による牧場でのソフトクリーム販売を始めた。
高知県で初めて平成１８年２月に中央酪農会議の「酪農教育ファーム」の資格を取得。
牧場の生乳、地元の食材を使ったソフトクリームを販売し、地産地消の取り組みを通じて、地域の活性化に寄与している。高知県の食農教育・食育分野における具体的実践例となっている。

【活動内容】
１．酪農基盤の整備
遠足等に牧場を開放、フリーバーン飼育方式の導入、地域とのコミュニケーションを図り愛される酪農への転換。良質な堆肥を格安で地域に提供し資源循環拡大、「酪農教育ファーム」認証を受け毎年１０校程度の体験を受入。
２．平成１９年６月にソフトクリーム製造販売を開始。酪農教育ファームを実践していくなかで、子どもたちや保護者たちとの交流が後押しした。
また、土日には牧場で直販市を開く。市では牧場の堆肥でできた野菜や花、卵等地域の農産物が並んでおり、その出品農家やソフトクリーム客等の交流の場ともなっている。お菓子の製造・販売を現在計画中。
３．生産と消費をつなぐ「顔が見え、話ができる」取り組み
高知市内の小学校を中心に、年１０回程度（毎回20人～100人規模）の児童及び保護者、一般消費者を受け入れている。
４．活動の成果
消費者に酪農の現場を見せ、場内の衛生面への配慮が一層高まり、「顔の見える開かれた牧場」経営が進み、消費者の信頼も非常に高い。
牧場に生乳、地元の食材を使ったソフトクリームを販売し、地産地消の取り組みを通じて、地域の活性化に寄与。
「高知市地産地消推進基本構想」や、「第２期高知県地産地消プログラム」の食農教育・食育分野における具体的実践事例としての役割。
酪農業界を取り巻く環境が非常に厳しい中、酪農教育ファームや、ソフトクリームの製造販売、堆肥の循環など、積極的に展開しており、「顔の見える開かれた牧場経営」、「複合的な牧場経営」としてモデル性、波及性は高い。